

27 産業革命と19世紀の欧米諸国の動き

- (1) 18世紀の中頃、イギリス人技術者のワットが改良に成功した、水蒸気を利用することによって動力を得る機関を何と呼ぶか？
()
- (2) 18世紀末、(1)の機関で動く機械が使われるようになり、工場で安く大量に生産されるようになったイギリス産の物は何か？
()
- (3) 1825年、スティーブソンが実用化した(1)の機関を利用したある物が、ストックトン・ダーリントン間の鉄道の上を走った。ある物とは何か答えなさい。
()
- (4) 製鉄、機械、鉄道、造船、武器などの産業が発達し、世界各地に安価な工業製品を送り出したことから、19世紀のイギリスは何と呼ばれるか？
()
- (5) 18世紀後半、イギリスから始まった、機械の改良や発明に伴う経済と社会の仕組みの変化を何というか？
()
- (6) 生産手段(資本)を所有する資本家が、利潤を得ることを目的として、労働者を賃金で雇って生産する経済の仕組みを何というか？
()
- (7) (6)の仕組みの広がりにより物が豊かになった一方、貧富の差の拡大、労働災害の発生など様々な社会問題も生まれた。このため、労働者は(6)の仕組みによって生じる不利益を、労働者自身が団結して資本家と対等な交渉をするためにある組織を結成した。この組織は何と呼ばれるか？
()
- (8) (6)の仕組みを批判する考え方として生まれ、生産手段を公の社会のものとする考えを何というか？
()
- (9) 『資本論』などの著者で、労働者が団結することにより(8)の考えに基づいた社会を実現できると説いた人物の名を答えなさい。
()
- (10) (5)をいち早く実現したイギリスでは、首都ロンドンが世界最大の都市になり、1851年に世界初のある催し物が開かれた。この催し物は何と呼ばれるか？
()
- (11) ドイツ(プロイセン)では、ある人物の指導の下富国強兵を進め、1871年に統一帝国となった。「鉄血宰相」と呼ばれたこの人物の名を答えなさい。
()
- (12) ロシアでは、ある人物が内政改革を行い、対外的にはスウェーデンと争ってバルト海に進出し、サンクトペテルブルクを新首都とするなどした。東ヨーロッパの強国ロシアの礎を築いたこの人物の名を答えなさい。
()
- (13) ロシアの黒海、地中海、中央アジア、東アジアへと勢力を拡大しようとする動きを何というか？
()
- (14) 1861年、自由貿易や奴隷制を巡る対立から、アメリカを二分する戦争が起こった。この戦争を何というか？
()

- (15) (14)の戦争中の1863年に奴隷解放宣言を出すなど、北部を勝利に導いた大統領の名を答えなさい。
()
- (16) (15)の大統領がゲティスバーグの演説で訴えた、民主主義の理想を示すものとして有名な一説を「人民の」から書きなさい。
()
- (17) 中南アメリカでは、19世紀の初めにメキシコやブラジル、アルゼンチンなどが独立した。大航海時代以来、中南アメリカに広大な植民地を持っていたヨーロッパの国を2つ答えなさい。
() ()
- (18) 清との貿易で大きな赤字だったイギリスは、工業製品をインドに輸出し、インドで栽培させたアヘンを清に持ち込んで売り、清からは茶などを買うようにした。この貿易を何というか？
()
- (19) (18)の貿易の結果、清からイギリスへと大量の銀が流出し、清はアヘンの輸入を厳しく取り締まると、イギリスは軍艦を派遣して戦争を起した。この戦争は何と呼ばれるか？
()
- (20) (19)の戦争は1842年の講和条約締結により、イギリスの勝利で終結した。この講和条約は何と呼ばれるか？
()
- (21) (20)の講和条約によって、イギリスは清に上海など5つの港を開港させ、ある島を手に入れた上に賠償金を支払わせるなどした。イギリスが手に入れたこの島の名を答えなさい。
()
- (22) 清が(19)の戦争の賠償金を支払うため、農民に重い課税を課したこともあり、ある人物を中心とする反乱が起きた。a)中心となった人物、b)反乱の名称をそれぞれ答えなさい。
(a) (b)
- (23) イギリスの支配地域が広がっていたインドでは、イギリスの安い綿織物が大量に流入するようになり、インドの伝統的綿織物産業が打撃を受けた。このような中、1857年にイギリス東インド会社に雇われていたインド兵のイギリス人の上官に対する反乱をきっかけに、反乱は各地に広がった。この反乱は何と呼ばれるか？
()